

Tahara

田原市ホームページ <http://www.city.tahara.aichi.jp>

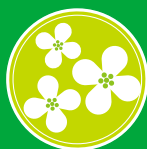
2012
平成24年

4.15

春風に ふわり ふわり!

目次

「しみの広場」	2
「こころはひとつ」復興支援イベント	
米国・ジョージタウン市で震災復興イベント	
地域の話題	
市民活動を応援するページ	
スクールレポート	6
学校生活の一コマを紹介	
たはらしティニュース	7
連載コーナー	8
おしらせ	10
歴史探訪クラブ	12



しみんの広場

CITIZEN'S PLAZA

もくじ

- 「こころはひとつ」復興支援イベント……………2ページ
- ジョージタウン市で震災復興イベント……………3ページ
- 地域の話題（田原中部校区）……………4ページ
- 市民活動を応援するページ……………5ページ

市民発!

「こころはひとつ」復興支援イベント

投稿 NPO田原しみん震災支援ネット・田原風保存会

私たちNPO田原しみん震災支援ネット（杵名智彦代表）と田原風保存会（松井克雄会長）は、東日本大震災の被災地へ野菜を送るなどの支援活動が続けてきました。今回は、3月10日（土）・11日（日）に開催した復興支援イベントをご紹介します。



●横連風を見上げる参加者ら

こころはひとつ 東日本復興支援と題したこのイベントでは、渥美半島の野菜を集めて被災地に送り、また協賛支援イベントとして復興支援風揚げを行いました。

事前に市民の皆さんには、支援物資として野菜の提供を呼びかけていたため、2日間で3000名の方が協力くださいました。日本一の渥美半島の野菜を被災地に送ろうと、野菜などの物資1080箱、お米2241kg、支援金22万9797円が集まりました。物資の運搬は、企業の皆さんの協力を得て、4トンと10トンのトラックに満載し、福島県と宮城県の仮設住宅に住む約4000世帯に届けました。

ここで、ご報告と、ご協力いただいた方々に深くお礼申し上げます。



●支援物資を積み込む様子



また、東北の復興を願う横連風（アーチカイト）には、東部中学校をはじめとする地元の小中学校6校の児童・生徒や、福島県から避難してきた方などがメッセージを書きました。被災地への思いを横連風にのせ、大空に3連の「絆」風が飛翔。東北の空へ届くようにと参加者たちは願いを込めていました。



● 人文字「友」 Nick Ylagan提供



Nancy Royden/Georgetown News-Graphic提供

● 友好園に松を植樹(姉妹都市に関わりの深い方たち)

● 友という文字を説明
Nancy Royden/
Georgetown News-Graphic提供

東日本大震災からの復興を願う

投稿

ジョージタウン市スコット高校日本語教師
ネイセン・パットンさん

東

日本大震災から1年を迎えた3月11日(日)、米国・ジョージタウン市で、復興を願うイベントを行いました。会場は友好園の広場。友好園は、田原市とジョージタウン市との姉妹都市提携10周年を記念してつくられた日本庭園で、今回のイベントにふさわしい場所です。参加者は人文字で「友」となるよう

に並び、『You've Got a Friend』を歌って、被災地への応援メッセージを発信しました。私の呼びかけに賛同して参加してくださった方はおよそ100名。参加者は、大震災を忘れないようにと、庭園内で松の木の植樹も行い、支援の気持ちを新たにしました。

に並び、『You've Got a Friend』を歌って、被災地への応援メッセージを発信しました。私の呼びかけに賛同して参加してくださった方はおよそ100名。参加者は、大震災を忘れないようにと、庭園内で松の木の植樹も行い、支援の気持ちを新たにしました。



市民の声紹介 ● ● ● ● ●

Q 愛知県が、東日本大震災による災害廃棄物(がれき)の受け入れについて、田原市の企業敷地内を検討しているとの報道がされていますが、市の対応を教えてください。

A がれきの受け入れについては、田原市だけでなく東三河8市町村で構成する東三河広域協議会で対応しています。

被災地の復興に対し、引き続き協力していく必要があると認識していますが、**がれきの受け入れについては、住民の安全の確保と、放射能汚染を拡散させないことが大原則**であると考えています。

今後は、東三河広域協議会において被災地の調査を行い、国の説明や愛知県が示す受け入れ基準などを勘案したうえで、受け入れの可否など対応方針を検討していきます。

※詳しくは、田原市ホームページをご覧ください
今後もホームページなどで随時お知らせしていきます

● 政策推進課 ☎23局 3507

http://www.city.tahara.aichi.jp/

友好都市「長野県宮田村」と調印 災害時相互応援に関する協定

4月9日(月)、田原市は長野県宮田村と、災害時相互応援に関する協定を結びました。

この協定は、地震や大雨などにより災害が発生した場合、相互援助の応援体制を確立するものです。応急の復旧に必要な食料や水の提供、職員の派遣のほか、児童・生徒など被災者の一時受け入れなどを行います。

詳しくは、広報たはら5月1日号「市政の話題」でご紹介します。



● 防災対策課 ☎23局 3548



▲教育講演会



▲田原祭り(昼山車のそろい踏み)

地域の話題

田原中部校区

絆を深める取り組み

田原市街地に位置し、「歴史・文化・伝統」の発信を目標に、地域づくりを進めている田原中部校区コミュニティ協議会から、力を入れている活動についてお便りが届きました。

田

原中部校区では、まちづくり推進計画に基づき、さまざまな行事や課題解決の取り組みを行っています。本校区の代表的な行事といえば、城下町の伝統文化を今に伝える「田原祭り」がありますが、今回は祭り以外の取り組みについてご紹介します。

アルゼンチンアリの根絶を！

「アルゼンチンアリ」は、校区外の皆さんにはあまりなじみのない名前かと思いますが、このアリは、もと日本には生息しない特定外来生物です。住宅に侵入して食べ物に群がったり、日本固有のアリたちを攻撃して地域の生態系を壊したりするなどの被害をもたらします。

現在、田原市街地を中心にこのア

リの大量発生が確認されているため、進入した区域を対象に、平成21年度から薬剤を使った一斉防除を行っています。こうした取り組みの成果で、生息区域から他地域への広がりは押さえられつつありますが、残念ながら、未だ駆除には至っていません。本校区としては、生息する区域だけの問題とせず、校区全体の課題として、これ以上生息範囲を広げず、アルゼンチンアリの根絶を目指す、活動を継続していく予定です。



▲薬剤の設置風景

いい汗！「スポーツ健康講座」

校区内には、多くの歴史文化の拠

点をつなぐ「ウォーキングトレイル」があります。そこで、その案内板を利用した「スポーツ健康講座・みんなでウォーキングをしませんか」を1月に開催しました。約50名の参加者は、市の職員から歩く際のフォームや注意点を学び、距離2・8kmの「中部満喫コース」を歩きました。心地よい汗を流したあとは、甘酒で心も体も温まりました。



▲案内板

地域で学ぶ「教育講演会」

毎年さまざまなテーマで開催しているこの講演会。今回は、豊橋調理製菓専門学校長の鈴木良昌氏を講師にお迎えし、「東三河の食環境 今昔」についてお話しいただきました。参加者からは「食育の大切さを実感した」「地元の食材をしつかり味わう食環境が重要」といった感想が聞かれ、日常の食生活を見直す良い機会となったようです。

このように、今後もさまざまな活動を通して、校区の絆を深め、暮らしやすい地域の実現を目指していきます。



市民活動を応援するページ



新・補助金制度

「市民活動向上事業」を募集します

◆市民活動の活性化で、「協働まちづくり」の実現を

市民活動団体は、田原市が目指す「協働によるまちづくり」の担い手として期待されています。そこで、団体のスキルアップや人材育成、団体間の連携強化を目的とした補助金が設けられました。市民活動の活性化を図るため、市民感覚の創意工夫を凝らした事業が募集されます。

対象事業 市内の市民活動の活性化につながる、団体のスキルアップ・人材育成・連携強化を目的とする事業で、平成25年2月末日までに完了するもの

対象団体 市内で公益活動を行う5名以上で構成された団体、またはそれらの連携組織

補助金額 1事業につき補助対象経費の2分の1（上限20万円）

募集期間 4月16日（月）～5月21日（月）※午後5時15分必着

審査方法 書類審査および審査会での提案説明 ※審査会は5月下旬開催予定

申請先 市民協働課 ☎23局 3504

その他 制度の概要、申請書の書き方など応募に関する相談は、市民活動支援センター（開設日は頁下段）で随時対応しますので、お気軽にご相談ください。また、応募の手引き・申請様式などは、田原市ホームページからダウンロードできます。



愛知県事業

ご近所の「お悩み解決」お手伝いします！

～地域コミュニティ活性化アドバイザー派遣事業～

地域コミュニティ団体の皆さんの悩みや困りごとに対して、直接地域に出向き助言を行う「アドバイザー」が、愛知県から派遣されます。ぜひ、ご応募ください。

●対象団体 組織として活動中の地域コミュニティ団体

●テーマ例 「団体リーダーの後継者確保」「行事の参加者増加策」「高齢者の見守り」など

●募集期間 5月11日（金）まで ※午後5時必着

●応募方法 アドバイスを受けたいテーマ（課題）などを派遣申請書で提出

●選定方法 愛知県による書類審査

応募・お問い合わせ ▶ 愛知県 地域振興部 地域政策課 地域振興グループ

☎ (052) 954 局 6096 FAX (052) 954 局 6906

✉ chiiki@pref.aichi.lg.jp ① http://www.pref.aichi.jp/chiiki/



助成金のご案内

あなたの活動にお役立てください

助成の名称	対象・内容	申請期限	申し込み・お問い合わせ
●平成24年度 ニッセイ財団・高齢社会助成	高齢社会における地域福祉、まちづくりを目指す地域を基盤とした先駆的事业など	5/31 困 ※当日消印有効	(公財) 日本生命財団 ☎ 06-6204-4013 ① http://www.nihonseimeizaidan.or.jp/kourei/
●赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」助成事業	東日本大震災で被災された方々への救援・支援活動 ※現地の状況の変化に合わせ、要項などは変更されます。	随時受付	(社) 中央共同募金会企画広報部 ☎ 03-3581-3846 FAX 03-3581-5755 ① http://www.akaihan.or.jp/

田原市民活動支援センター

① http://www.city.tahara.aichi.jp/kyoudou/

① NPOや市民活動に関する相談を受け付けています。（毎週 ②・③・④ 14:00～19:00 田原文化会館フリースペース）

② このページおよび市民活動支援センターホームページに掲載する市民活動情報を募集しています。

③ お問い合わせ：☎22局 1111（内線812）※ 開設時間のみ FAX23局 0180 ✉ shiminkatsudo@city.tahara.aichi.jp



スクールリポート

SCHOOL REPORT 45

学校生活の
一コマを紹介

今回は、小学校での児童会活動とサイエンスショーの様子をご紹介します。

●学校教育課 ☎ 23局3679

六連小学校「児童会活動」

自信をつけよう！特技発表会

六連小学校では、毎年全校で特技発表会を開いています。この発表会は、子どもたちがグループごとに日ごろの練習の成果や得意なことを発表し合う会です。

今年は、2月7日(火)に、体育館で30組延べ120名の児童と、六連保育園年長児の11名が発表会を行いました。こま回し、竹馬、一輪車、空手、バドミントン、フラフープ、サッカー、ヨーヨー、ピアノなど実にさまざまです。保育園児も跳び箱などの演技をしました。

『子どものときに身につけたことは、大人になっても忘れない』といわれています。また、何か得意なものがあると自信がわいてくるものです。

子どもたちには、人の特技を見て刺激を受け、自分の特技をさらに磨いて欲しいと思っています。



●リンボーダンスで、通れるかな？



●ハンドベルで、きらきら星と聖者の行進を演奏したよ



●バラを液体窒素に入れたら、どうなるかな？



●空気砲の発射実験をしたよ！

中山小学校「理科学習」

わくわくどきどき「サイエンスショー」

中山小学校では、昨年から「かかわり 考え 学び合う」をテーマに、理科と生活科の研究を進めています。その取り組みの一つとして、月1回、月曜日の朝会の時間に、「サイエンスショー」を行っています。

1月は「-196℃の世界」と題して、液体窒素にバラの花や風船を入れる実験を行いました。2月は「空気で遊ぼう」と題して、ドライヤーの風力でカップ麺の入れ物を浮かせたり、巨大空気砲で煙の形を変えたりする実験をしました。

子どもたちは、毎回、目を輝かせ、身を乗り出して、色々な実験に歓声をあげています。これからも月1回、子どもたちが、楽しく、わくわくするような実験を計画しています。このサイエンスショーを通して、子どもたちの科学への興味関心が、もっともっと深まっていくことを願っています。



▲誓いの言葉を述べる新入生代表の田中佑樹さん



▲元気よくパレードする赤羽根保育園の園児たち(国道42号沿い)



▲季節の花を使ったフラワーアレンジメント教室も好評でした

4月3日(火)

たつぷくで
学生生活スタート

田原福祉専門学校入学式が行われました。新入生45名は、これからの2年間で、介護福祉士の国家資格取得を目指します。地域の行事や祭りなどに参加する機会も多い同校の学生。同じ道を歩む仲間たちと、田原市でたくさんさんの思い出を作ってくださいね。

3月1日(木)

乾燥する季節は
みんなで火の用心

春季火災予防運動の一環として、赤羽根保育園、第一保育園で防火パレードが行われました。かわいい法被姿で参加した計124名の園児たちは、「火の用心!」と音楽に合わせて拍子木を打ち鳴らし、沿道の住民に防火を呼びかけました。

3月6日(火)

豊かな地域資源
私たちの誇り

日帰り花育バスツアーが田原市豊橋市内で行われ、32名が参加しました。地元の食材や季節の花のすばらしさに触れてもらおうと行われたこのツアー。参加者は、田原市内で最先端機器のあるJA花き出荷場を見学後、ランチバイキングで旬の味覚を楽しみました。

広がる未来へ

たはらエコ・ガーデンシティ構想

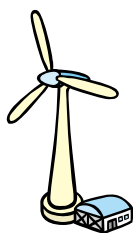
●「再生可能エネルギー」について考えてみよう！

東日本大震災以降、再生可能エネルギーに対する注目が高まっています。皆さんの生活にも深い関係のある再生可能エネルギーについてご紹介します。



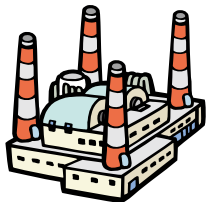
☑再生可能エネルギーとは

石油や石炭など一度燃やせばなくなる資源ではなく、太陽光や風力、水力、地熱、バイオマスなど、何度でも繰り返し使うことができるエネルギーのことです。



☑再生可能エネルギーの割合

日本の発電電力量に占める再生可能エネルギーの割合は9%です。これに対し、化石燃料は62%、原子力は29%を占めています。（平成21年度）



72

☑再生可能エネルギーのメリット

① 自然の力で発電可能であることから、エネルギー自給率アップにつながります。

② 地球にやさしいエネルギーです

ので、温暖化対策に役立ちます。

③ 日本の将来を支える産業を育てることができ



田原市は、太陽光発電システムの設置の支援をするなど再生可能エネルギーの普及に努めています。



● たはらエコチャレンジ宣言登録者数
個人1740人 事業所80か所（3月末現在）

▼エコエネ推進課

☎ 23局 7401 FAX 23局 0180

RRR
Reduce Reuse Recycle

省資源とリサイクル
けいじばん 48



ゴミとリサイクルランジャー

最近、ごみ出しのルールやマナーが守られていないことがあります。今回は、ごみを出すときに気をつけてほしいことについてお知らせします。

◆ごみは収集日の午前6時～8時までに出しましょう



ごみは種類ごとに収集日が決まられています。ごみ収集カレンダーを確認し、夜間や収集日以外の日には出さないでください。



◆自分が住む地区の決められたステーションを利用しましょう

各地区に設置してあるステーションは、地元の皆さんが管理しています。他の地区のステーションには、絶対に出さないでください。



◆ごみの飛散防止に努めましょう

ペットボトル・プラスチック容器類、白色トレイなどの軽いごみが、風で巻き上げられ、周辺の道路に散乱していることがあります。一人ひとりが回収ネットの口を必ず締めるなど、マナーの徹底をお願いします。

◆粗大ごみは決められたルールで出しましょう

長辺が40cm以上の大きなごみは、直接資源化センターへ持ち込みましょう。

ルールやマナーを守り、気持ちよくステーションを利用できるように、ご協力をお願いします。



次回から、内容をリニューアルし、省資源・リサイクル情報に加え、環境に関する情報もご紹介します。皆さんお楽しみに！

▼清掃管理課

☎ 23局 3538 FAX 23局 0180



交 流 通 信

「国内外との交流・多文化共生」

「海と山のまち」交流スタンプラリーにご参加ください

田原市と姉妹都市 設楽町の交流スタンプラリーについてご紹介します。



平成2年に姉妹提携し、今年で22周年を迎えた田原市と設楽町。これからも交流を続けていく両市町では、今年度も交流スタンプラリーを開催します。応募用紙に指定のスタンプを押して応募すると、抽選で賞品が当たります。山のまち設楽町からの「水の恵み」を体感しながら、スタンプラリーに参加してみませんか。※この事業は、豊川上下流域の相互理解を目的に両市町が共同で実施しています。

●開催期間

4月下旬～平成25年1月31日(木) ※応募はがき必着

●参加資格

どなたでも

●応募方法

応募用紙に、指定の4つのエリア(設楽町2つ、田原市2つ)から各1つ、すべてのエリアのスタンプを集め、必要事項を記入のうえ、直接または郵送にて

●応募先

田原市役所政策推進課、設楽町役場企画課

●賞品

国内旅行券(1本)、Wチャンス特別賞(1本)、「道の駅」協賛プレゼント(30本)、「海と山のまち」特産品ほか、計100本予定

●お問い合わせ

政策推進課 ☎23局3507

※詳しくは、各ラリースポットにある応募用紙をご覧ください。

●市内に応募用紙を配布しているラリースポット

「道の駅」田原めっくんはうす・あかばねロコステーション・伊良湖クリスタルポルト、サンテパルクたはら

●防犯情報

・児童・生徒を対象とした防犯情

※地区ごとに放送される内容は配信されません。

・防災行政無線(同報無線)で市内全域に放送した内容

・気象警報(波浪警報を除く)および津波注意報・警報

・地震情報(市内で震度1以上)

・東海地震注意情報などの東海地震関連情報

●防災行政無線情報

●防災行政無線情報

●防災行政無線情報

●防災行政無線情報

●防災行政無線情報

●防災行政無線情報

●防災行政無線情報

●防災行政無線情報

●防災行政無線情報

●防災行政無線情報

●防災行政無線情報

●防災行政無線情報

●防災行政無線情報

●防災行政無線情報

●防災行政無線情報

●防災行政無線情報

●防災行政無線情報

●防災行政無線情報

●防災行政無線情報

●防災行政無線情報

●防災行政無線情報

●防災行政無線情報

●防災行政無線情報

▼防災対策課 ☎23局3548

●登録方法

●登録方法

●登録方法

●登録方法

●登録方法

●登録方法

●登録方法

●登録方法

●登録方法

●登録方法

●登録方法

●登録方法

●登録方法

●登録方法

●登録方法

●登録方法

●登録方法

●登録方法

●登録方法

●登録方法

●登録方法

●登録方法

●登録方法

●登録方法

●登録方法

●登録方法

●登録方法

●登録方法

●登録方法

●登録方法

みんなできり組む防災・減災

けんちゃん

田原市安心安全ほっとメール

防災知恵袋

12



伊藤 博文さん
ひろふみ

前任の鈴木貞敏さん（赤羽根町）に代わり、新たに伊藤博文さん（若見町）が選任されました。任期は平成25年2月7日までです。

田原市固定資産 評価審査委員会委員

委員

MEMBER OF COMMITTEE



募集

WANTED

まちの環境美化対策 アダプトプログラム（里親制度）

アダプトプログラム（里親制度）は、市民と市が協力し合い、市が管理する道路、公園、河川などの公共施設を市民がボランティアとなつて管理する制度です。道路や公園、河川などを養子とみなし、親子どもを大切にするように、清掃・美化などの活動をしていただきます。※詳しくは、お問い合わせください。



▲ロゴマーク

●活動場所
市が管理する道路・公園・河川などの公共施設

●活動内容
ごみの収集、除草、樹木の管理、活動計画書・報告書の提出

●支援内容
環境美化に必要な物品（ごみ袋、軍手）の支給や貸し出し
希望者にはボランティアの名称を表示するサイン看板の設置

●活動時に事故が発生した場合の補償

●その他活動に必要な事項

●対象者

市内に在住・在勤・在学する個人・事業者・団体

●申し込み

所定の申し込み用紙に必要事項を記入のうえ、維持管理課へ直接（申し込み用紙は維持管理課で配布するほか市ホームページからもダウンロード可）

●その他

申し込み後に、市と協議して「合意書」を交わします。

●維持管理課

☎ 23局 4103 FAX 23局 0180

✉ iikani@city.tahara.aichi.jp

http://www.city.tahara.aichi.jp/

流域モニタリング

一斉調査参加者

▼対象Ⅱ市内の2名以上で構成するグループ（中学生以下の子どもを含む場合は保護者同伴）▼調査期間Ⅱ6月5日（環境の日）の前後1週間※この期間内に、調査ができない場合は時期をずらして調査することも可能。▼内容Ⅱ身近な水辺（河川・海・ため池など）の水質、水量、生態系などを調べて調査結果を報告

▼参加料Ⅱ無料 ▼申し込みⅡ5月

11日（金）までに環境衛生課で配布する参加申込書に必要事項を記入のうえ提出

▼環境衛生課

☎ 23局 3541 FAX 23局 0180

✉ kankyo@city.tahara.aichi.jp

春の汐川干潟自然観察会

豊橋市と共同で、野鳥や干潟の生き物の観察会を開催します。

▼対象Ⅱどなたでも（中学生以下は保護者同伴）▼日時Ⅱ5月20日（日）午前10時～正午まで ※雨天中止

▼場所Ⅱ汐川干潟（豊橋市杉山町）

▼定員Ⅱ50名（先着順）▼参加料Ⅱ無料 ▼持ち物Ⅱ長靴、スコップ、タオル、帽子、飲み物、筆記用具

▼申し込みⅡ5月8日（火）までに、電話またはFAX・Eメール・はがきにて（FAX・Eメール・はがき

の場合は、代表者の郵便番号・住所・電話番号と参加者全員の氏名・年齢を明記）

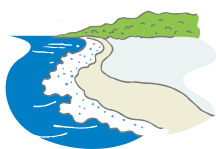
▼豊橋市環境保全課

（〒440-8501 住所不要）

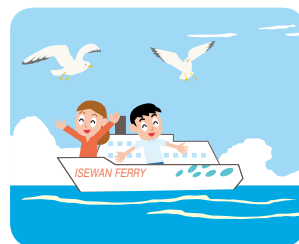
☎（0532）51局 2385

FAX（0532）56局 5126

✉ kankyohozen@city.toyohashi.jp



三河港クルーズ 三河港統合50周年記念イベント



三河港の企業の操業動向を学習し、田原市臨海部工業団地の果たす役割を学ぶイベントです。

洋上クルーズ船は、伊勢湾フェリーを利用します。

▼対象Ⅱどなたでも（子どもだけの参加は小学4年生以上のグループ）▼内容Ⅱ①Aプラン…ラグーナ蒲郡で満喫コース（三河港クルーズとラグーナ蒲郡）②Bプラン…ちよっとお出かけコース（三河港クルーズ）※三河港の役割や機能、第26回エリカカップ・ヨットレースの模様を船上から見学 ▼日時Ⅱ5月27日（日）①午前8時～午後4時②午前10時30分～午後2時 ※少雨決行（東三河南部地域や田原市に、気象警報などが発令中、または発令の恐れがある場合は中止）▼集合場所Ⅱ田原文化会館第1駐車場 ▼定員Ⅱ①100名②50名 ※応募者多数の場合は抽選 ▼参加料Ⅱ3000円（乳児は無料）▼持ち物Ⅱ弁当、

飲み物、タオル、帽子など ▼申し込みⅡ5月18日（金）までに、企業立地推進室などで配布する参加申込書に必要事項を記入し持参またはFAX・電話にて

▼企業立地推進室
☎23局3549 FAX23局0669

長野県宮田村 りんごの木オーナー

平成11年に田原市と友好提携を結んだ宮田村では、交流事業の一環として、JA上伊那宮田支所が「りんごの木オーナー」を募集します。太陽の光をたっぷり浴びて育った、甘い蜜の入った「サンふじ」を収穫してみませんか。

なお、昨年度に契約したオーナーの方には、継続希望をお伺いするハガキを郵送していただきます。ご記入のうえご返送ください。



♥サンふじA

●価格Ⅱ2万5000円（税込み）
●数量Ⅱ180個保証

♥サンふじB

●価格Ⅱ3万8500円（税込み）

●数量Ⅱ300個保証
▼申し込みⅡ5月2日（水）までに電話にて

▼JA上伊那宮田支所営農課
☎（0265）84局1201

豊橋田原食育体験講座「地産地消のランチセミナー」参加者

ホテルで味わう豊橋・田原の旬の農業王国豊



橋・田原で生産される旬の特選素材を活かした特別ランチメニューをいただきながら、シェフや生産者の方からお話を伺います。

▼日時Ⅱ5月16日（水）正午～午後2時 ▼場所Ⅱホテルアークリッ シュ豊橋 ▼講師Ⅱ酒井淳氏（ホテル総料理長）、地元のプロ生産農家ほか ▼定員Ⅱ25名（申込者多数の場合は抽選） ▼参加料Ⅱ3500円（食事代） ▼申し込みⅡ4月30日（月）振）までにFAX・Eメール・はがきにて（参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号を明記）

▼豊橋田原広域農業推進会議事務局（〒440-8501 住所不要 豊橋市農政課内）
☎（0532）51局2464

生活

消費生活相談室で お気軽にご相談ください

消費生活に関するさまざまな相談を受け付けています。相談員が、法律の専門家である弁護士、司法書士の利用の仕方などアドバイスいたします。一人で悩まずご相談ください。

▼日時Ⅱ①第1・第3・第5金曜日／午前10時～正午②第2・第4金曜日／午前10時～正午 ▼場所Ⅱ①田原福祉センター相談室②あつみライ フランド（5月11日☎から、渥美文化会館小会議室Aへ変更） ▼相談料Ⅱ無料

▼商工観光課

☎23局3522
FAX22局3817

訪問販売・契約トラブル、悪質商法など困ったとき、疑問に思ったときは、お気軽にご相談ください。



歴史探訪

クラブ

History Inquiry Club

其の
133



文化財課 ☎23局 3635
FAX 22局 3811

貝づくし渥美1

渥美商工会が進めている「貝づくし渥美」のパンフレットやホームページをご覧になったことがありませんか。貝料理の美味しいお店の紹介や貝にまつわる情報が満載です。貝の旬の時期、おすすめの料理方法まで載っていて、とても親切なものです。また、きれいな写真でレイアウトされ、見るだけでも楽しいパンフレットです。

私は、その中で「日本一の貝の半



▲貝で作られた玩具

島」というコピーがとても気に入りました。「ちよつと大げさじゃない？」と思う方がいるかもしれませんが、私も大賛成。よくぞ言ってくれました。思わず拍手をしてしまいました。それでは、なぜそんなことを言えるのか、渥美半島の人たちと貝とのつながりを探ってみましょう。

渥美半島は貝塚の宝庫と呼ばれるほど、縄文時代の貝塚が多い地域です。2mあまりにも積み重なった貝殻の地層を見ると、縄文人は貝が大好きで、さまざまな貝を食べていたことがわかります。今でも店先や料理店で並ぶアサリ・ミルカイ・ウチムラサキ（大あさり）・ダンベイキ

サゴ（ながらみ）・アカニシをはじめ、あまり食べないオニアサリ・イボニシ・スガイ・ツメタガイ・サルボウまで食べています。しかし、縄文時代に多く食べられていた貝のハマグリ・ハイガイ・イタボガキは、今では渥美半島には、いなくなっています。渥美半島の人たちは、昔からさまざまな海に生息する貝を食べていたことが特徴としてあげられます。

また、縄文人は食べるだけでなく、腕輪を作るために貝を利用していました。この貝の腕輪は、渥美半島のブランドとして当時の重要な産業でした。

平成17年に吉胡貝塚の発掘で見つかった「葬られた女性」は、貝の腕輪、貝の頭飾り、貝の鏃（やじり）といった貝にこだわったアクセサリを身に付けていました。また、埋葬された子どもには、合わせた貝殻の中に貝を



▲縄文女性に付けられた貝のアクセサリー

入れ、音を出す「ガラガラ」のような玩具が添えられていました。まるで、貝に囲まれた渥美半島の人たちを象徴するようです。

・・・つづく

（増山）

今月の「表紙」

▼出勤途中で見かける福江町のカワヅザクラ。苗木のころから成長を見てきたので、毎年、開花を楽しみにしていました。冬の寒さが長引き、平年よりも開花が遅れていましたが、心待ちにしていたぶん、満開になったときの感激もひとしお。今では、立派な「サクラの名所」になりました（O）

【表紙の写真】免々田川のカワヅザクラ（福江町）